

自然遊学館 だより

2001 夏号 (No.21)

2001.7.1

大きくなったかなドングリの木

—そして トンボの池のヤゴは？

ザリガニは？—

平成 10 年 10 月に完成したドングリの森に当時植えたドングリのなる木が 3 年目を迎え、どれだけ大きくなったかをみんなで確認することにしました。それとともに、前号でも報告されたトンボの池の現状を知っていただくため、トンボの池のヤゴ調べとザリガニ採りを 2001 年 4 月 28 日の午後 1 時から、前館長上久保文貴氏を講師として迎え、46 名の参加者（スタッフ含む）のもと、平成 13 年度最初の行事として実施しました。

ドングリの森に当時植えられた植物でドングリのなる木は、アベマキ、アラカシ、ウバメガシ、クヌギ、コナラですが、その他にも自然に育ってきたものもあり、ドングリの森には 14 種類、約 150 本の木が生えています。そして中でも一番大きなものは 208cm にも達し、太さも 11.5cm にもなっているものがありました。

また、トンボの池では、昨年までは 12 種類確認されていたヤゴが今回の調査では 4 種類で、個体数も激減していました。それに対し、アメリカザリガニは 136 匹が捕獲され、一番大きなものでは 10.3cm、

重さ 28g という結果でした。

いずれにしろ、アメリカザリガニが確認される以前に比べ、トンボのヤゴが種数、個体数ともに激減していることは事実であり、今回トンボの羽化殻がシオカラトンボ 1 つだけであったこともそれを反映しているものと考えられる。というのも、少なくともアメリカザリガニが確認される以前の昨年の同時期では、ギンヤンマやシオカラトンボなどの羽化殻が 100 近くも確認されていたことからその影響がうかがえます。

葉っぱのバッタづくり

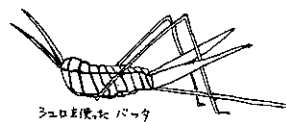
日 時：平成 13 年 5 月 9 日

講 師：橋本 夏次氏（貝塚市職員）

湯浅 幸子氏（自然遊学館）

場 所：自然遊学館

秋口に、毎年「鳴く虫の声を聞く」という行事をしています。その講師をして下さっている加納康嗣氏デザインのシュロを使ったバッタ作りをしました。お母さん方対象でしたが、帰って子どもたちといっしょに作り、好評だったようです。



シュロ製バッタ

(湯浅 幸子)

21世紀のビオトープシンポジウム

日時：平成13年5月12日

場所：兵庫県立人と自然の博物館ホロンピアホール

2月17日～6月17日、兵庫県立「人と自然の博物館」において「21世紀のビオトープ」という企画展示があり、ビオトープでの市民活動が紹介されていました。「市民の森に自然生態園をつくる会」もパネル展示で参加しました。

今回、企画展シンポジウム「ビオトープの現状と展望」に「つくる会」の会員4名が参加しました。

発表事例

- 「相生湾塩生植物の保全」
- 「放棄水田を利用したビオトープづくり」
- 「都市でのホタル復活の取り組みと市民の期待」
- 「休耕田活用の学校ビオトープ」
- 「ため池の水草保全・復元」
- 「生きもの豊かな農村をとりもどそう」
- 「チガヤ草原の復元」

(湯浅 幸子)

遊学館で飼育している昆虫

当館の常設の飼育ケージでは、オオカマキリ、ヒラタクワガタ、オオクワガタ、ツチイナゴ、クビキリギス、サツマゴキブリを飼育しています。オオカマキリは2齢か3齢まで発育しています。クワガタは、以前にはケージの内部が明るすぎるのか、マットの内部に潜ってばかりいたのですが、黒い画用紙の覆いをして内部を薄暗くして、夜行性のクワガタの活動を昼間でも見られるように、飼育方

法を改良しました。ただ、マットの表面に出てきているのは、ヒラタクワガタであることが多く、オオクワガタはあまり表面に出てきていません。

バッタ、コオロギ、キリギリスの仲間は、秋に繁殖シーズンを迎えた後、卵で越冬することが多いのですが、ツチイナゴとクビキリギスは成虫で越冬します。クビキリギスも他のキリギリスの仲間と同じく、オス成虫が「鳴く」のですが、鳴く季節は秋ではなくて春です。遊学館のある市民の森でも、ジー——という大きな鳴き声を聞くことができます。成虫で越冬するこれらの種は昆虫の少ない冬季の展示には欠かせない存在です。

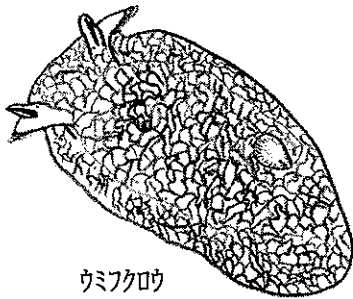
サツマゴキブリは近畿では和歌山県に分布し、成虫になっても翅が生えない(鱗状の小片となる)という特徴を持っています。ケージの中で目立つのは黒光りする成虫ですが、灰色の小さな幼虫も注意すれば観察できるかもしれません。ほとんどの昆虫はふつう卵を産みますが(卵生)、サツマゴキブリは卵胎生で、卵を腹部内で孵してから幼虫を産み出すということをします。

仮設の飼育ケージでは、ヒラタクワガタ、タガメ、オオゴキブリを飼育しています。オオゴキブリは今年の4月9日に水間公園のコナラの倒木に群生していた幼虫と成虫を採集したものです。その時に倒木から同時に採集した昆虫で同定できたものは、ヤマトシロアリ、カブトムシ(幼虫)、チビクワガタ、ヒメオビオオキノコムシ、ユミアシゴミムシダマシ、オオクチキムシです。その他にも、アリやチャタテムシの仲間を採集しました。

(岩崎 拓)

海で見つけたウミフクロウ

ぼくは、よく海に行っては、いろんな生き物をとっては、自然遊学館に採った生き物を持っていきます。この前、二色海浜緑地へ生き物を採りに行きました。岩と岩の間を見ながら歩いているとアメフラシに似ているへんな生き物がいたので「これはめずらしい!」と思ってつかまえました。それからすぐに自然遊学館へもって行きました。しらべてもらうと、ウミフクロウという変わった名前の、自然遊学館に初めて持ち込まれたウミウシの仲間でした。ぼくは、7月から8ヶ月アメリカのオレゴン州に行きます。あっちでもいろんな生き物を取りたいです。



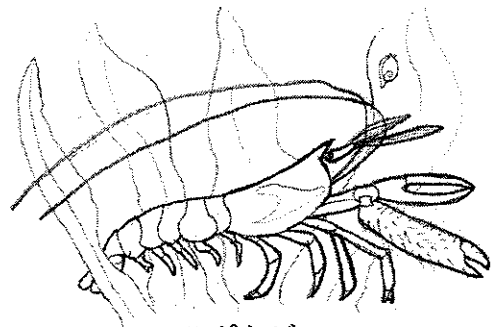
ウミフクロウ

(貝塚市立第5中学1年 寺田 拓真)

二色の海を彩る生物たち

自然遊学館には主に近所の小・中学生によって、いろいろな生きものが持ち込まれますが、特に今年の春から夏にかけては二色海浜緑地で採集された生きものが多かったように思います。イトマキヒトデ、キヒトデ、ミズクラゲ、アカクラゲなどは、お馴染みですので、ここでは少し変わったものを紹介します。

- ウミフクロウ (ウミフクロウ科) 1 個体
3月31日, 二色海浜緑地, 寺田拓真
- ドフラインクラゲ (エダクラゲ科) 8 個体
4月27日, 二色海浜緑地, 寺田拓真
- カミクラゲ (キタカミクラゲ科) 2 個体
5月12日, 二色海浜緑地, 寺田拓真
- キュウセン (ベラ科) 2 個体
5月, 二色大橋下運河, 向江太郎
- ウミタナゴ (ウミタナゴ科) 1 個体
5月, 二色大橋下運河, 向江太郎
- ブドウガイ (ブドウガイ科) 多数
5月26日, 二色海浜緑地, 館の行事時
- テッポウエビ (テッポウエビ科) 1 個体
5月27日, 二色海浜緑地, 市原唯里



テッポウエビ

え) 二色小6年 市原唯里

(山田 浩二)

トンボの池に出現したアメリカザリガニその後

前回、トンボの池にアメリカザリガニが大繁殖し、それと反比例するようにヤゴ達の数が急激に減ってしまい、このままではトンボの池は崩壊する、水漏れ防止の泥の層をザリガニが穴をあけたら池が干乾びる、というので、池の水を抜いてザリガニ捕獲を試みたものの、何匹かのザリガニが残っている、という内容の事を書きましたが、その後の経過に

ついてお知らせします。

前号の遊学館だよりが出る一月ほど前から、すでにトンボの池には一日に20匹程の子ザリガニたちが獲れるようになっていました。1月11日に第5中学の生徒さんたちが生物調査に来た時のデータには、ザリガニ35匹捕獲、とあります。こう書くと、たくさんザリガニがいるように感じられますが、そのときはまだ、ほとんどが釣りえさのオキアミ程の大きさで、また、水温が日中でも4℃前後であったため、ほとんど動かず、池のほとりから見ても、よほど目を凝らさない限り判りませんでした。そして、それから3ヶ月程の間に、ザリガニたちは急激な成長をみせ、池のあちらこちらで、十分に大きくなった彼らの長いヒゲ(触角)が見え隠れするという有様になってしまいました。4月28日には、とうとうザリガニ釣りのイベントをすることになり、140匹ものザリガニが釣れました。釣り上げたザリガニはみな、全長8センチくらいまでに成長していました。

このような次第で、今年もザリガニに振り回されることになったトンボの池なのですが、このような事態に対して、生態園をつくる会の人たちは、天敵となる生物を導入する、ザリガニだけに効く薬を入れる、など、実現不可能と分かりつつ、いろんなことを考えていますが、未だ打つ手なし、人の手で取り除くしかない、という状態です。

さらに困ったことには、うわさを聞きつけて、ザリガニを採りに来る人たちがたくさん来るようになってしまい、トンボの池周辺に植えたアンペライの草を踏み倒してしまったり、池の底をかき混ぜてドロドロにしまったりということが起こるよう

になりました。池に来る人の話によると、最近、アメリカザリガニがほとんどいない、ということです。遊学館のスタッフの多くは、年中貝塚市内、市外、問わず、様々な池や小川などに出かけますが、その様な場所で、ザリガニを見かけないことのほうが少ないくらいなのに、と、不思議な感じがしました。ただ、子どもを連れて、気軽に行けるような所には、さすがにそんな環境がないのかもしれませんが。

(渡部 哲也)

自然遊学館だより 2001夏号(No.21)

発行日 2001.7.1

貝塚市立自然遊学館

〒597-0091

貝塚市二色3丁目26-1

TEL. 0724(31)8457
